



東北大学グローバルCOE

Network Medicine創生拠点

大学院セミナー

吉田 稔 博士

(理化学研究所・吉田化学遺伝学研究室・主任研究員)

生体機能におけるタンパク質アセチル化と そのネットワーク

2008年10月9日 (木) 17時-18時

医学部大会議室 (1号館2階)

「化学遺伝学」は古典遺伝学における「変異」を化学物質、特に細胞機能調節物質(バイオプローブ)に置き換え、それによって引き起こされるユニークな表現型を分子のレベルで解明することを目指した新しい分子遺伝学です。吉田博士は、これまでにレプトマイシンBやトリコスタチンなどを発見し、それらを用いてタンパク質の細胞内輸送やクロマチン修飾システムを解明するとともに、発がん機構の研究にも応用してきました。本セミナーでは、バイオプローブを活用したアセチル化、メチル化、ユビキチン化、SUMO化などのタンパク質翻訳後修飾とその相互ネットワークに関する最新の研究成果を発表していただきます。

参考文献

- Kaida, D. et al. Spliceostatin A targets SF3b and inhibits both splicing and nuclear retention of pre-mRNA. *Nature Chem. Biol.*, 3: 576-583, 2007.
- Matsuyama, A. et al. ORFeome cloning and global analysis of protein localization in the fission yeast *Schizosaccharomyces pombe*. *Nature Biotechnol.*, 24: 841-847, 2006.

本セミナーは医学履修課程特別セミナー等を兼ねています。
受講学生は履修簿を持参し、セミナー修了後にサインを受けること。
聴講は自由大歓迎です。学部生の皆さんもぜひどうぞ。

拠点リーダー 岡 芳知

世話人 五十嵐和彦 (生物化学・内線7596)